

令和 7 年 1 1 月 2 0 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第 3 号

病 害 虫 名 チュウゴクアミガサハゴロモ
Pochazia shantungensis (Chou & Lu, 1977)
作 物 名 チャ、カンキツ類、ウメ、モモ、ナシ、
カキ、庭木等幅広く加害する。
発 生 地 域 京都府全域

1 発生経過

- (1) 令和 7 年 1 0 月、山城地域の茶園で発生が確認され、枝に綿状の卵塊を産み付ける被害が見られた。
成虫を当所にて確認したところ、チュウゴクアミガサハゴロモと同定された。
- (2) 本種の成虫や産卵痕は茶園や舞鶴市や南丹市のミカン園、亀岡市の庭木で発生が確認されている。
- (3) 本種は、令和 7 年 1 1 月 2 0 日現在、京都府を含めて 2 3 都府県で特殊報が発表されている。

2 形態及び生態

- (1) 本種成虫は赤褐色から暗褐色の蛾に似た形態をした体長 1 4 mm～1 5 mm のカメムシ目の昆虫で、前翅前縁中央部に三角形の白い斑紋を有する（写真 1、2）。
- (2) 幼虫は白色をしており、背中から腹部にかけて綿状の蠟物質の毛束を広げている（写真 3、4）。背中には小さい黒い斑紋を有する。

3 被害の特徴

- (1) 成虫、幼虫ともに枝を吸汁加害し、発生量が多いと糖分を含んだ排せつ物により、すす病を生じさせる。
- (2) 成虫が新梢等の直径 1 0 mm 以下の細い枝や葉の葉脈部分に産卵管を挿しこみ、規則正しい列状に多数の卵を産み付ける。
この際、産卵管が維管束を傷つけるため（写真 5）、伸長抑制や新梢枯死等の被害を生じさせる。
産卵痕は白い綿状の蠟物質で被覆される（写真 6）。

＊茶樹の場合、産卵痕がクワシロカイガラムシ（写真7）やヒサカキワタフキコナジラミ（写真8）に似ているが、蠟物質を取り除いた際に、枝に産卵管による傷が確認できるため、判別可能である（写真9）。

4 防除対策

- （1）令和7年11月20日現在、対象作物において本種を対象とした登録農薬は無い。
- （2）産卵された枝は放置せず、地中深くに埋設、焼却処理を行うなど、適切に処理する。
- （3）ほ場内をよく見回り、成虫や幼虫を確認したら速やかに捕殺する。



写真1 チャ葉上の成虫



写真2 ツバキ枝上の成虫と産卵痕

三角形の白い斑紋



写真3 チャ葉上の幼虫



写真4 ミカン枝上の幼虫

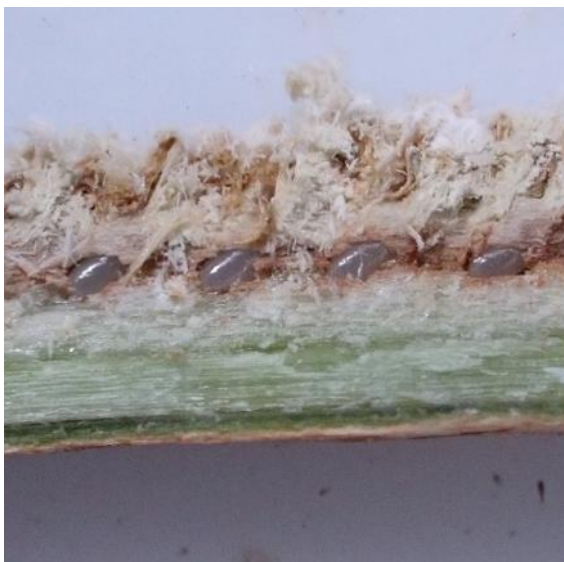


写真5 枝内の卵



写真6 ツバキに産み付けられた産卵痕



写真7 クワシロカイガラムシ



写真8 ヒサカキワタフキコナジラミ



写真9 蟬物質を取り除いた産卵痕
(チュウゴクアミガサハゴロモ)